



- ①【突然】「上田市学校給食のあり方」・・・到底理解しがたい
- ②【初めて】(安倍) 首相が国政選挙で「改憲」を訴えると宣言・・・

メールアドレス: masahiro3660@mac.com 上田市下之郷 473-1 TEL38-4452・FAX38-7935・携帯 09015542698 《部内資料》  
【わたなべ正博後援会】

# 旧上田市の学校給食の内容が 大きく変わる・・・到底理解しがたい

【突然】上田市教育委員会は「上田市の学校給食のあり方について」の方針を、昨年12月の定例教育委員会で決定した。

## 東塩田小は丸子へ 川辺小は大規模へ

それは、現在は3カ所の給食センターと9カ所の自校給食室で調理されている、学校給食のうち旧上田市の学校給食の内容が大きく変わるものです。

東塩田小学校の自校給食を廃止して丸子給食センターへ統合、川辺小学校も給食センター化し、現在2つある給食センターを1つにまとめ、1万食もの大規模センターへ統合するといふものです。

旧上田市の学校給食の

「質」という問題に直面することになります。

## 上田市自治基本条例 の基本理念に反する

東塩田では平成27年度の東塩田地区振興会の推進すべき課題のトップに「東塩田小学校給食室の改築」が明記されています。

上田市としての廃止の方針を決定するのに、東塩田小の父兄や地域住民に何ら説明もなく、一方的に決定するのは住民軽視と言わざ



現在の東塩田小学校の給食調理場は、昭和37年に音楽室として建てられた。

るを得ない。

## 審議会答申は「自校給食が望ましい」としたのになぜ・・・

平成23年の「上田市学校給食運営審議会」答申は、昭和54年の答申を見直し、「子どもに対する食育が重視されている状況において、特に学校給食を教材として活用した食に関する指導の充実を図っていく観点から考えた場合には、単独調理場方式（自校給食）とすることが望ましい」とした。

それなのになぜ、今、単独調理法式である東塩田小・川辺小がセンター化されなくてはならないのか。現に真田、武石は自校のまま存続するではないか。

裏面へ

## わたなべ正博のノート

くらし・困りごと  
なんでも相談  
気軽の声をかけてください  
メールOK

- 1日 東北信9市正・副委員長会議
- 2日 神畑交差点スタンディング
- 3日 上田地域広域連合議会「協議会」
- 4日 生島足島神社「節分」
- 5日 広域連合議会一般質問項目通告
- 6日 上田市議会スポーツ議員連盟総会
- 7日 塩田商工振興会新年会
- 8日 モルティ塩田街頭演説
- 9日 朝日友好親善新年会
- 10日 上田駅前モーニングスピーチ
- 11日 広域連合議会一般質問文書通告
- 12日 東塩田自治連市役所挨拶回り
- 13日 ニュースペーパーin坂城
- 14日 広域連合議会「保健福祉委員会」
- 15日 JJA信州うえだと議会産業水道委員会との懇談会
- 16日 モルティ塩田街頭演説
- 17日 浅間池総会
- 18日 生島足島神社御柱「綱繰り」
- 19日 上田勤労者釣りの会新年会
- 20日 上田市議会「政策討論会」
- 21日 【議会運営委員会】質問通告開始
- 22日 上田地域広域連合議会「開会」
- 23日 一般質問「ゴミ処理広域化計画」
- 24日 上下水道組合と議会産業水道委員会との懇談会
- 25日 議事会派代表者会議
- 26日 商工会議所青年部&いっわ会と議会産業水道委員会との懇談会
- 27日 「アベ政治は許さない」SD行動
- 28日 上田地域広域連合議会「2日目」
- 29日 来光寺池代表会
- 30日 モルティ塩田街頭演説
- 31日 東塩田防犯協会理事会
- 1月1日 上田駅前モーニングスピーチ
- 1月2日 上田市議会3月定例会「開会」
- 1月3日 【一般質問・議案質疑準備】
- 1月4日 一般質問「2・1・2」

(2月4日現在)

### 理念に近づける努力をした結果なのか

また、平成23年答申の「あとがき」では、「なお、検討の結果、財政状況など諸事情により、やむを得ず答申内容に沿った学校給食の実現が困難な場合であっても、この答申に示している理念と望ましい実施方針に近づけるよう努力されることを切に望む」と結んでいる。「理念と望ましい実施方針に近づけるよう努力した結果が、「東塩田小学校給食調理場の廃止↓丸子学校給食センターへ統合」ということなのか。

少なくとも、今ある自校給食を残すのは当然で、なぜ、そういう結論なのか？こんな方針で、具体的に東塩田小の給食や子どもたちの何が良くなるのか、到底理解がたい……。



## (安倍) 首相が国政選挙で『改憲』を訴えると宣言したのは初めてのこと

もし、今年夏の参院選で勝利し、改憲発議に必要な3分の2の議席を奪取したら、宣言通り改憲に動いてくるでしょう。

過去、安倍首相は国政選挙に勝利するたびに「有権者の信任」を振りかざし、国家の根幹を大きく変えてきた。秘密保護法も安保法もそうでした。

### 一番いいタイミングを見計らってやるはずだ

参院選で勝利したら、あと2年以上、国政選挙はない。憲法を変える時間にはたっぷりある。安倍首相が、そのチャンスを見逃すとは思えません。このようなことを許さないためには、参院選の改選

で改憲勢力が3分の2以上の議席を得ることを阻止しなければなりません。

### 民主党議員は野党第一党で満足……

本来、時の政権と対峙するのは、野党第一党のほうです。

ところが、民主党が頼りにならない。それは、民主党議員の多くが、野党第一党という現状に満足しているからだと思う。

だから、『小沢一郎は嫌いだ』『共産党とは一緒にやれない』などと、野党共闘にも動かない。

### 野党は共闘

政党には過去の歴史や



【唐沢ちあき（長野選挙区）・藤野やすみ衆議院議員・たけだ良介（比例区）】 ご支援よろしくお願ひします

利害関係があるから、簡単には一つにまとまれないのかもしれない。でも、国民にとっては政党の都合など、どうでもいいことです。

安倍政権を倒すためには、野党が結集するしかない、結集すれば、夏の参院選でも勝利する可能性が出てくる。

なぜ、民主党議員はそれが理解できないのか？

### 選挙・政治

昨年6月、公職選挙法が改正され、18歳以上20歳未満の人にも選挙権が認められることになりました。今年の6月19日に改正公職選挙法は施行されます。

施行後、最初の国政選挙が公示されてから18歳選挙権は適用されるため、満18歳以上の有権者は、今年の夏に行われる参院選が初めての「投票できる選挙」になる予定です。

### Let's 選挙

選挙とは、誰かを選ぶことです。その誰かとは「決める人」のことであり、通常、行政の長や議員を意味します。

政治とは「決めること」です。だから、決める人を選ぶという行為は、政治にとって重要な意味があります。

政治を動かすのは議員ですが、自分の代わりに議員を議会に送り込んでいるのは選挙権を持つ国民ですから、本当に政治を動かしているのは、わたたくしたちです。